

日本のロックフェスティバルが求めること

現在日本では、ロックフェスが年々広まりつつある。著者がフェスというものの自体に興味を持ち始めたのは、大学2年生の時に初めて参加した ROCK IN JAPAN FESTIVAL（通称：ロッキン）であった。フェスでは音楽を聴き楽しむというだけでなく、服装や食事など様々な要素からもたのしむことができる。初めは自分の好きなアーティストを聴くために参加していたが、いつからかフェス自体そのものの雰囲気を楽しむために参加するようになっていた。フェスは参加者に何を求めているのか、参加者に向けてフェスがどのように開催されているのかという2つ観点から日本のフェスの本質を明らかにする。

第1章では、日本のフェスの定義と始まりについて、世の中に浸透し始めてきた経緯と歴史、ロックフェスを語る上では外すことのできない FUJI ROCK FESTIVAL（通称：フジロック）について、そして2000年以降から新型コロナウイルス感染症を経て現在のフェスの市場規模の広がりなどフェスについての要素を述べている。

第2章では、フェスの参加について、フェスの楽しみ方や、楽しむための服装、フェス飯について参加者の目線を中心に述べている。

第3章では、フェスに参加する参加者について、フェスでしか行うことができないリアルな体験、フェスのタイムスケジュールについて、また、フェスにおけるノリ、アーティストに合わせたノリなど参加者とアーティスト間でおきる現象について述べている。

第4章では、各フェスから出ている主催者のメッセージを読み取ることで主催者は参加者に何を求めているのかを述べている。

そして、現代のメッセージから読み取れるフェス開催の意図は、焦点が参加者にあり、参加者自身が自分らしい、自分主体のフェスを自分自身で作り上げてほしいということが読み取れる。VIVA LA ROCK 2024 のメッセージでは、タイムテーブルそのものが参加者へのプレゼンテーションだというように、ROCK IN JAPAN FESTIVAL では、参加者が今まで作り上げてきた空間や伝統を守りつつ、それを新規の参加者に継承していくことで更に多くの人にフェスというものの楽しさを感じてもらえるということになっている。FUJI ROCK IN FESTIVAL'では、こんなものがあってのいいのではないかと参加者に疑問を問いかけている。目的はなくてもいい、ただそこにあるものを純粋に楽しんでほしいというようなメッセージが感じられる。このようにフェスは参加したり一人一人が主役で正解はなく自分で参加すること自体が楽しむことの正解なのである。